

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H00493

研究課題名（和文）ツアー・パフォーマンス研究に資する統合型アーカイブの構築とその実践的活用

研究課題名（英文）Construction of an Integrated Archive for Tour Performance and its Practical Application

研究代表者

高山 明（Takayama, Akira）

東京藝術大学・大学院映像研究科・教授

研究者番号：60748333

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ツアー・パフォーマンスを「ツーリズム」と「ドラマトゥルギー（演劇を演劇たらしめる筋立てや構成）」の二大要素から分析し、都市と演劇の関係を探求した。過去のツアー・パフォーマンス作品のアーカイブ化を進め、展示やウェブサイトを通じて広く共有し、国際的な研究プラットフォームを確立した。実践においては、ツアー・パフォーマンスを「道の演劇」と捉え、シルクロードを辿るイラン・ツアーを行うことで研究の成果を実地に検証した。さらに、《東京ヘテロトピア》アプリの更新を通じて、都市の機能への拡張を図った。こうした成果は、国際シンポジウム『「東京ヘテロトピア」の10年とこれから』で公開された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によりツアー・パフォーマンス研究の基盤が強化され、関連分野の発展が期待される。社会的には、アーカイブとアプリの公開により、広範な人々が過去のツアー・パフォーマンスを体験・共有できるようになり、観光と文化の融合による新たな都市体験の創出に寄与した。さらに、ツアー・パフォーマンスが都市の機能となることで、都市に暮らす人たちの生活を豊かにし、さらには都市を学びの場に変えるツールとなる可能性が開けた。

研究成果の概要（英文）：This study explored the relationship between the city and theater by analyzing touring performances in terms of the two major elements of "tourism" and "dramaturgy (the plot and structure that makes theater theater)". It has also established an international research platform by archiving past tour; performance works and sharing them widely through exhibitions and websites. In practice, tour performances were regarded as "theater of the way" and the results of the research were verified in practice through a tour of Iran along the Silk Road. Furthermore, through updating the "Tokyo Heterotopia" application, the project was extended to the function of the city. These results were presented at the international symposium; "Tokyo Heterotopia" 10 Years and Beyond; Invisible Theater, City, and Tourism around Heterotopia."

研究分野：人文・社会 / 芸術実践論 / 演劇

キーワード：ツアー・パフォーマンス ツーリズム ドラマトゥルギー ソーシャリー・エンゲージド・アート アーカイブ ポストドラマ演劇 都市 ワークショップ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究『ツアー・パフォーマンス研究に資する統合型アーカイヴの構築とその実践的活用』は、「ツアー・パフォーマンス」に関する実証的な研究である。研究代表者・高山は観客（ツアーの参加者）が都市の中を移動しつつ、指定された訪問地で視覚的・聴覚的な仕掛けを体験として提供するツアー型のサイト・スペシフィックなインスタレーションを「ツアー・パフォーマンス」と総称し、ツアー・パフォーマンス作品を数多く発表してきた。

ツアー・パフォーマンスは観客自らの空間の移動をテキストの運動に取り入れ、映像・写真・音声などを用いた空間表現として再構成した表現である点で、脚本の文学性を絶対化し視覚化するドラマ演劇や映画表現とは一線を画している。本研究では、空間の移動を受容者に否応なく意識させ、その運動によって現実の切実さを実感させるポストドラマ演劇としてツアー・パフォーマンスを位置づけ、そこからどのように社会的な現実や政治的な思想・信条が物語として伝えられるのか、という核心的な問いがある。

また、ツアー・パフォーマンスは、ポストドラマ演劇、サイトスペシフィック・アート、ソーシャル・エンゲイジド・アート、トータル・インスタレーションといった学術的背景を持つため、これらの分野との関連性を明らかにすることが課題であり、観客が参加者となり、同じ時空間を共有することで形成されるコミュニティやその場が、どのように現実に干渉し、また干渉されるかという問いも重要であった。

このような背景から、ツアー・パフォーマンスの学術的価値を体系的に解明し、その制作方法を探求する必要があった。

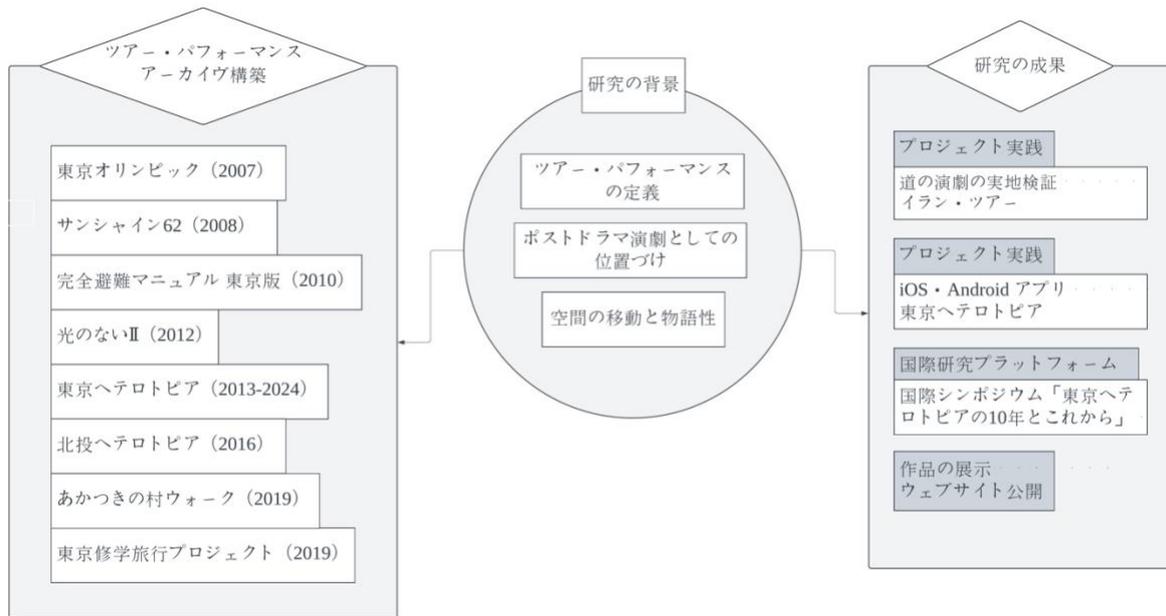
2. 研究の目的

美術・視覚芸術の一分野としてのパフォーマンスアートは狭義には、芸術家自身の身体が作品を構成し、作品のテーマになる芸術であると理解されている。研究代表者・高山が命名し実践してきた「ツアー・パフォーマンス」では、パフォーマンスを成立させている観客の「移動」や「身振り」が作品を構成し得ることが暗黙知となっている。

本研究では、ツアー・パフォーマンスを成立させる二大要素を、「ツーリズム」と「ドラマトゥルギー」と捉え、既存の都市ツアー（観光旅行、団体旅行、修学旅行）とこれまでのツアー・パフォーマンス（作品）を素材にしながら、都市と演劇の関係を考えるうえで不可欠なツーリズムとドラマトゥルギーの具体的な機能を探求しようとするものである。またこの研究は、翻って、二つの要素がどのようにツアー・パフォーマンスを成立させているかの分析へと通じるため、ツーリズムとドラマトゥルギーについての研究であると同時に、ツアー・パフォーマンスの制作方法についての研究にもなる。

本研究では、そのツアー・パフォーマンスをまずはポストドラマ演劇として位置づけ、作品の記録（映像や写真のデータ）はもとより、完成に至るまでに生産される膨大な談話（トークやディスカッション）やテキスト原文、さらには中間生成物（解説やキャプション）などの資源を網羅的に収集し、アプリケーションを組み込んだアーカイヴを構築しながらツアー・パフォーマンスという表現形式の「物語性」を検証する。

また、プロジェクト型の芸術的な実践は受容者の関与が前提となるものが多く、結果的にツアー・パフォーマンス作品はその実受容者研究のプラットフォームにもなり得る。本研究はツアー・パフォーマンス作品のアーカイヴ化を契機として現代芸術の言語的な役割を客観的に分析することによって、プロジェクト実践と受容者研究を両立させることのできる研究プラットフォームの確立をめざした。



3. 研究の方法

本研究は以下のような手順で研究を遂行した。

①研究代表者・高山が過去のプロジェクトで実践し収集したインタビューや朗読などの音声データ、位置情報、地図データを保存管理するアーカイヴを構築。（これには、過去のツアー・パフォーマンスの記録や資料をデジタル化し、システム内で整理・分類する作業が含まれる。）

②当該のアーカイヴはツアー型のインスレーションを制作支援するアプリケーションとしても機能するように構築。

③構築した統合型アーカイヴを用いて、いくつかの都市を対象としたリサーチ（現地調査や対面調査）を行う。これにより、ツアー・パフォーマンスの制作に必要な現地の情報やデータを収集し、現地調査では、インタビューやフィールドワークを通じて、都市の歴史や文化、社会的な現実を深く理解する。

④さらにアーカイヴを用いてツアー・パフォーマンス制作のための国際的な共同制作プラットフォームの確立を図るとともに、国際シンポジウムを開催し、ツアー・パフォーマンスという表現形式の「物語性」やポストドラマ演劇とアートプロジェクトの親和性などを評価する。これにより、ツアー・パフォーマンスの構造とその表現形式の有効性を総合的に評価した。

4. 研究成果

①アーカイヴ構築

第一に、ツアー・パフォーマンスに関する統合型アーカイヴを構築することができた。このアーカイヴには、過去のプロジェクトで収集された膨大なインタビュー映像・音声、朗読、翻訳、位置情報、地図データなどが保存・管理されている。これにより、ツアー・パフォーマンスの制作過程やその背景に関する豊富なデータベースが整備された。

②プロジェクト実践と研究プラットフォームの確立

実践においては、ツアー・パフォーマンスを「道の演劇」と捉え、シルクロードを辿るイラン・ツアーを行うことで研究の成果を実地に検証した。さらに、それ自体が東京という都市のアーカイブでもあるアプリ作品《東京ヘテロトピア》を大幅に更新し、iPhone版に加えてAndroid版を、日本語版に加えて英語版を制作。その過程で多数の海外研究者を招き入れることが可能になり、「ツーリズム」と「ドラマツルギー」を軸としたツアー・パフォーマンス制作のための国際的なプラットフォームの確立が実現した。その成果の一部は東京藝術大学にて行われた『「東京ヘテロトピア」の10年とこれから ー混在郷をめぐる不可視の演劇、都市、観光』と題した国際シンポジウムという形で公開された。

本研究によりツアー・パフォーマンス研究の基盤が強化され、関連分野の発展が期待される。社会的には、アーカイブとアプリの公開により、広範な人々が過去のツアー・パフォーマンスを体験・共有できるようになり、観光と文化の融合による新たな都市体験の創出に寄与した。さらに、ツアー・パフォーマンスが都市の機能となることで、都市に暮らす人たちの生活を豊かにし、さらには都市を学びの場に変えるツールとなる可能性が開けた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高山明 / Port B
2. 発表標題 ワーグナー・プロジェクト@大分
3. 学会等名 場所：大分市・祝祭の広場
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高山明
2. 発表標題 シンポジウム「Art and the Space In-between」
3. 学会等名 会場：テヘラン大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高山明
2. 発表標題 Our Songs
3. 学会等名 場所：Alte Oper Frankfurt
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高山明
2. 発表標題 Delivery
3. 学会等名 場所：Kunstenfestivaldesarts, Kaaitheater
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高山明 / Port B
2. 発表標題 ワーグナー・プロジェクト@金沢21世紀美術館
3. 学会等名 会場：金沢21世紀美術館
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高山明
2. 発表標題 戦争画 / ヘテロトピア - 東京国立近代美術館編
3. 学会等名 会場：MISA SHIN GALLERY
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高山明
2. 発表標題 「わたしの歌」プロジェクト
3. 学会等名 開催：東京ビエンナーレ2020/2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高山明 / Port B
2. 発表標題 マクドナルドラジオ大学
3. 学会等名 開催：Kunstendestivaldesarts (ブリュッセル)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	桐山 孝司 (Kiryama Takashi) (10234402)	東京藝術大学・大学院映像研究科・教授 (12606)	
研究分担者	桂 英史 (Katsura Eishi) (60204450)	東京藝術大学・大学院映像研究科・教授 (12606)	
研究分担者	和田 信太郎 (Wada Shintaro) (80648353)	東京藝術大学・大学院映像研究科・助教 (12606)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 「東京ヘテロトピア」の10年とこれから - 混在郷をめぐる不可視の演劇、都市、観光	開催年 2023年～2023年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------